

様式 6

平成 18 年度共同利用実施報告書(研究実績報告書)

1. 研究種目名 研究集会
2. 課題番号または共同利用コード 2006 - W—04
3. 研究課題(集会)名 和文: 地殻深部の能動的監視観測の実用戦略とその基礎研究
英文: Active Monitoring in Solid Earth Geophysics: Basic Studies and Applications
4. 研究期間 平成 18 年 6 月 1 日 ~ 平成 19 年 3 月 20 日
5. 研究場所 地震研究所
6. 研究代表者所属・氏名 静岡大学・熊沢峰夫
(地震研究所担当教員名) 佐野 修
7. 共同研究者・参加者名(別紙)

共同研究者名	所属・職名	備考
山岡耕春	地震研究所・教授	
藤井直之	静岡大学・客員教授	
佐伯昌之	東京理科大学・助手	

8. 研究実績報告(成果)(別紙にて約 1,000 字 A4 版(縦長)横書)(別紙に作成)
10. 成果公表の方法(投稿予定の論文タイトル、雑誌名、学会講演、談話会、広報等)
成果は Elsevier 特集号等を予定.

備考 ・研究成果を論文等で発表される場合、以下の形式の文章を謝辞等に記載して下さい。

(英語)This study was supported by the Earthquake Research Institute cooperative research program.

(和文)本研究は、東京大学地震研究所共同研究プログラムの援助を受けました。

・特定共同研究 B については、プロジェクト終了年度に冊子による報告書の提出が必要です。

・研究成果について、本所の談話会、セミナー、「広報」での発表を歓迎いたします。

参加者名簿 EARS 2007年10月10日(火) 参加者数：71名

参加者名	所属	備考
浅森 浩一	原子力機構	
飯高 隆	東大地震研	
生田 領野	東大地震研	
石田 瑞穂	JAMSTEC	
伊勢 智彦	静岡大	
市原 光太郎	静岡大・理	
伊藤 潔	京大防災研	
岩切 一宏	気象研	
上田 誠也	東海大	
歌田 久司	東大地震研	
内田 直希	東北大	
宇納 貞男	JGI	
浦辺 徹郎	東大地惑	
大石 真梨子	静岡大・理	
大島 章一	日本大陸棚	
大西 聡	日本大陸棚	
岡田 知己	東北大	
笠原 順三	静岡大理，日本大陸棚調査	
勝間田 明男	気象研究所	
加藤 直子	地震研	
金 幸隆	地震研	
金田 謙太郎	海洋情報部	
鎌谷 紀子	気象庁	
上村 彩	川崎地質	
川勝 均	地震研	
木下 正高	J A M S T E C	
木村尚紀	防災科研	
国友 孝洋	原子力機構	
熊澤 峰夫	静岡大・理	
小松 美加	東大出版会	
斎藤 祥司	気象庁	
鷺谷 威	名古屋大環境科学	
佐藤	東大地震研	
佐野 修	地震研	
茂田 直孝	原子力機構	
鈴木 敬一	川崎地質(株)	
鈴木 宇耕	CDEX/JAMSTEC	
須藤 法子	名大	

参加者名	所属	備考
高橋 亨	深田地質研究所	
田村 八洲夫	日本大陸棚	
ダレシオマユー	地震研	
チャダラム・シバジ	産総研	
辻 宏道	地震研	
土出 昌一	川崎地質	
鶴 哲郎	コスモエネルギー開発(株)	
鶴我 佳代子	東大海洋研	
鳥海 光弘	東大理学部	
中島 崇裕	東濃地科学センタ・東海大	
永田 広平	東大地震研	
永田 広平	地震研	
中原 恒	東北大地球物理	
西澤 修	産総研	
羽佐田 葉子	浜松学術振興会	
長谷川 昭	東北大学	
東原 紘道	防災科研	
黄 為鵬	静岡大・理	
福島 洋	京大防災研	
福山 栄一	防災科研	
藤井 直之	静岡大	
藤江 剛	J A M S T E C	
松岡 俊文	京大社会基盤工学	
松原 誠	防災科研	
松村 正三	防災科研	
三浦 哲	東北大	
三ヶ田 均	京都大学	
宮崎 真一	東大地震研	
山岡 耕春	東大地震研	
山田 隆二	防災科研	
吉田 康宏	気象研	
吉田 弘		
渡辺 俊樹	名古屋大	

以上 7 1 名

参加者名簿 EARS 2007年10月11日(水)

参加者名	所属	備考
浅川 賢一	JAMSTEC	
浅森 浩一	原子力機構	
安間	川崎地質	
飯高 隆	東大地震研	
生田 領野	東大地震研	
石田 瑞穂	JAMSTEC	
伊勢 智彦	静岡大	
市原 光太郎	静岡大・理	
伊藤 潔	京大防災研	
岩切 一宏	気象研	
上嶋 誠	東大地震研	
氏家 恒太郎	JAMSTEC	
歌田 久司	東大地震研	
内田 直希	東北大	
大石 真梨子	静岡大・理	
岡田 知己	東北大	
笠原 順三	静岡大理、日本大陸棚調査	
勝間田 明男	気象研究所	
金 幸隆	地震研	
鎌谷 紀子	気象庁	
川勝 均	地震研	
川口 勝義	JAMSTEC	
国友 孝洋	原子力機構	
熊澤 峰夫	静岡大・理	
桑谷 立		
後藤 忠徳	JAMSTEC	
斎藤 祥司	気象庁	
佐伯 昌之	東京理科大	
阪口 秀	JAMSTEC	
里村 幹夫	静岡大・理	
佐野 修	地震研	
佐柳 敬造	東海大・海洋研	
茂田 直孝	原子力機構	
鈴木 敬一	川崎地質(株)	
鈴木 宇耕	CDEX/JAMSTEC	
土出 昌一	川崎地質	
鶴我 佳代子	東大海洋研	
鳥海 光弘	東大理学部	

参加者名	所属	備考
中島 崇裕	東濃地科学センタ・東海大	
永田 広平	東大地震研	
永田 広平	地震研	
中谷 正行	東大地震研	
西澤 修	産総研	
羽佐田 葉子	浜松学術振興会	
長谷川 昭	東北大学	
長谷川 健	原子力機構	
東原 紘道	防災科研	
黄 為鵬	静岡大・理	
福島 洋	京大防災研	
藤井 直之	静岡大	
松原 誠	防災科研	
三浦 哲	東北大	
三ヶ田 均	京都大学	
山岡 耕春	東大地震研	
吉田 康宏	気象研	
吉田 真吾	東大地震研	

以上 56名

参加者名簿 能動監視 2007年10月12日(木)

参加者名	所属	備考
浅森 浩一	原子力機構	
生田 領野	東大地震研	
市原 光太郎	静岡大・理	
岩切 一宏	気象研	
大石 真梨子	静岡大・理	
笠原 順三	静岡大理、日本大陸棚調査 K K	
勝間田 明男	気象研究所	
国友 孝洋	原子力機構	
熊澤 峰夫	静岡大・理	
佐伯 昌之	東京理科大	
里村 幹夫	静岡大・理	
佐野 修	地震研	
佐柳 敬造	東海大・海洋研	
茂田 直孝	原子力機構	
鈴木 敬一	川崎地質(株)	
須藤 法子	名大	
鶴我 佳代子	東大海洋研	
中島 崇裕	東濃地科学センター、東海大	
羽佐田 葉子	浜松学術振興会	
東原 紘道	防災科研	
黄 為鵬	静岡大・理	
藤井 直之	静岡大	
山岡 耕春	東大地震研	
吉田 康宏	気象研	
渡辺 俊樹	名古屋大	
佐伯 昌之	東京理科大	
長尾 年恭	東海大	
羽佐田 葉子	浜松科学技術研究振興会	
伊勢 智彦	静岡大	
岡野 眞	産総研	
長谷川 健	原子力機構	
森田 信義	静岡大	

以上 32名

研究実績報告（成果）（別紙にて約 1,000 字 A4 版（縦長）横書）

本研究集会は、地球内部の状態やその変化を捉えるための能動的モニタリング研究にむけて、地震学・電磁気学などの異なる分野間の交流を図るとともに、各分野内での個別課題を集中的に議論し知恵を出し合う共同研究の場を設けることを目的に行った。

2003年度地震研究所一般共同研究(2003-G-26)「ACROSS開発の中間総括とさらに展開すべき研究課題の整理」(代表：熊澤峰夫)を利用した研究集会において、「地球能動的モニタリング・コンソーシアム」(JCEAM, 代表：防災科学研究所 地震防災フロンティア研究センター長 東原紘道)を設立し、過去3回、地震研究所と静岡大学にて研究集会を開催し、昨年度は2005年度地震研究所共同利用研究・研究集会(2005-W-02)「能動的モニタリングの地震火山への実用戦略とその基礎研究」を開催した。今年度は、2006年度地震研究所共同利用研究・研究集会(2006-W-04)「地殻深部の能動的監視観測の実用戦略とその基礎研究」として2006年10月12日に開催した。これまでの能動監視研究成果の発表から、本研究に対するより一層の関心と理解を得ると共に、物質科学や工学的観点など多様な研究分野とも連携・協力しながら、地震発生場や火山などにおける能動的モニタリングの将来像や研究戦略について議論を深めることができた。

本研究集会と深く関連するテーマである「EARS:(Exploration of Asperities and Reflectors System)」を10月10日と11日に連続開催し、能動監視のみならず、その背景を共通とする研究者や能動監視研究の成果を期待する参加者も集めることにより、研究集会の質を高めると共に、能動監視研究の意義を広く知らしめる機会にすることできた。そこで、これら三日間の参加者名簿を提出する。